



2008年4月1日発行(通算第49号)

発行 大坪庄吾方 呑川の会

連絡先 〒146-0085 大田区久が原 4-19-24

の み が わ

呑川の会 e-mail nomigawa@r00.itscom.net

呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



呑川芽吹きウォークにご参加を

—主催 呑川をきれいにする会—

呑川沿いのある200種以上の樹木も一斉に芽吹きのを迎えます。最近の新聞記事に芭蕉の「よく見ればなずな花咲く垣根かな」の句が載っていました。芽吹きウォークとはそのようなものでしょう。樹木に大変くわしい可児さんの案内により次のとおり芽吹きウォークを行います。ご都合のつく方は是非ご参加ください。

日時：4月19日(土曜日)10時～15時

集合場所：第二京浜国道・呑川交差点の池上橋下流側・・・10時

講師：可児 昭雄 さん

範囲：池上橋～京浜蒲田

参加費：500円 持参品：弁当、飲み物

小雨決行 微妙な場合は当日8時30分～9時の間に福井宛連絡ください。

電話 080-3400-6018



10年後までに時間降雨55ミリまで床上浸水の防止

<東京都豪雨対策基本方針の策定>

現在の東京都は昭和61年に総合的な治水対策を定め、それに基づき施策を進めてきたが、昨今の降雨状況、社会環境の変化等に対応するため、去年の8月 都市整備局、建設局、下水道局で新たに「東京都豪雨対策基本方針」を発表していますので、ご紹介いたします。(基本方針は東京都都市整備局のHPで閲覧できます)

豪雨対策の目指すところ

10年後の目標

時間降雨55ミリまでは床上浸水等を防止

既往最大降雨でも生命安全の確保

長期見通し(概ね30年後)

時間降雨60ミリまでは浸水を解消

時間降雨75ミリまでは床上浸水等を防止



既往最大降雨でも生命安全を確保

そのための対策は「流域対策」(浸透ます、緑地確保等による雨水の地下浸透策)、「河川・下水道整備(流下施設)」(河道・下水道管そのものの整備)、「河川・下水道整備(貯留施設)」(環7地下にあるような一時的な雨水の貯留施設)、「家づくり・まちづくり対策」(高床建築、地下空間浸水対策等の促進)、「避難方策の強化」(洪水情報の周知態勢強化)と5つに区分・整理して進めようとしています。

10年後の目標である床上浸水等の防止する時間降雨 55 ミリに対しては「流域対策」で 5 ミリ、「河川・下水道整備(流下施設)」と、「河川・下水道整備(貯留施設)」で 50 ミリを受け持つことにしています。ちなみに呑川は現在「河川・下水道整備(流下施設)」だけで 50 ミリ対応はほぼできており、「流域対策」分は 1.5 ミリ分(平成 17 年度末実績約 6 万 m^3)進んでいるので大雑把には呑川については時間 51.5 ミリ降雨までは洪水にならない。それに対し神田川は「流域対策」では 3.3 ミリ分(平成 17 年度末実績約 62 万 m^3)と進んでいるが「河川・下水道整備(流下施設)」と、「河川・下水道整備(貯留施設)」ではまだ 50 ミリ対応ができておらず、「流域対策」を含めた全体としてもまだ 50 ミリ対応は完了してないそうです。

また現在時間降雨 50 ミリに対しての各河川の「河川・下水道整備(流下施設)」だけの達成度をその河川の「整備率」、それに「河川下水道整備(貯留施設)」を加味した達成度を「治水安全度達成率」と定めているが、流域対策を含めた総合指標はまだ作成されておらず、20 年度に神田川、渋谷・古川の 2 河川に作成予定とか。

区に呑川についての協議会の設置を！

- 区議会で奈須議員が呑川について質問 -

(文責 福井 甫)

3月11日の大田区区議会予算特別委員会で奈須議員が次の2テーマについて質問されました。

1. 呑川の浄化と河川管理について
2. 建築紛争などからみえる大田区のまちづくりの課題について

詳細は大田区区議会のホームページで質問状況の映像を見ることができますが、うち呑川についての部分の骨子は次の通りです。

(ホームページは次の手順による 大田区議会 議会中継 平成 20 年 平成 20 年予算特別委員会 奈須利江再生(44 分))

質問1 小池湧水の呑川への流入

呑川の水源は落合水再生センターの下水処理水 36000 m^3 に 98%依存している。そのような中で上池台にある小池公園の湧水は日量平均 144 m^3 で、これは都営地下鉄から導水している湧水 140 m^3 に匹敵する水量であるが、これを現在は下水道に排水してしまい非常に勿体ない話である。これを洗足流れを經由して呑川の流すことは考えられないか。

回答 管路の確保の問題、および湧水が小池で 2 週間ほど滞留するため植物プランクトンの発生など水質の汚れ、またその水の洗足流れ、呑川への影響等の問題もあるので、今後の検討課題としたい。

質問2 大田区開発指導要綱の改正

道路や建物に降った雨を透水性舗装や雨水浸透枡などで下水に流さず、地面に染み込ませることは下水が呑川に流れ込むことを防止するためにも、湧水を確保するためにも有効な対策である。現在大田区の開発指導要綱では 1000 m²以上の開発と流域内の集合住宅に雨水流出抑制対策として貯留施設や浸透施設の設置を指導しているがこれを「面積を更に引き下げる」、「集合住宅だけでなく個人住宅にも対象」として水の自然の循環にもとすることが必要ではないか。

回答 対象面積を 500 m²以上に下げるとともに、個人住宅についても従来の浸透枡の助成を強化するだけでなく、小規模住宅における貯留槽の助成制度も創設し、今年度に予算計上している。このようなことにより水を自然の循環に戻すようにしていきたい。

(注 大田区は今後 500 m²以上に下げられるが、葛飾区では既に 300 m²以上になっている)

質問3 越流水対策について下水道局への働きかけの強化

去年の、区長の議会答弁どおり、都下水道局、建設局、大田区まちづくり課、環境保全課が一堂に会した「浄化対策研究会」が発足した。一方下水道法 21 条では越流水の水質調査を義務付けているが、都は呑川については行っていない上、都の「新・合流改善クイックプラン」のモデル地区に呑川が入っていないのは区民として到底納得できない。現実の呑川の越流水対策が遅々として進まない理由がここにあると考えられる。是非水質調査とともに呑川流域の対策が促進されるよう浄化対策研究会を通じて下水道局に働きかけてもらいたい。

回答 ご指摘のとおり水質調査はしなければならない義務がある。ただこれは東京都の方で取り組んでいないので、呑川の越流水時の水質について下水道局に報告しながら調査をすすめ改善してゆきたいと考える。今後も浄化対策研究会を通じ呑川の越流水後の河川の実態を総合的に把握しながら効果的な対策を実施するよう強く働きかけて行きたいと考えている。

質問4 下水道局と連携した雨水浸透枡設置の指導強化

小金井市では新築、増改築の際、市下水道課との協議において雨水浸透枡の設置の協力が求められるため、ほぼ全ての建物で浸透枡の設置が行われている。浄化対策研究会をひとつの契機として、新築時の雨水浸透枡の設置を下水道局と連携して建築主に対し指導する仕組みをつくってはどうか。

回答 建築主については建替え時が一つの機会であり、助成制度の PR を充実させてゆきたい。下水道局も新築・改築時に指導してもらいたいとその際 区の浸透施設のパンフレット紹介など協力を求めるなど、下水道局との連携を強めてゆきたい。

質問5 呑川未改修区間の改修工事への建設局への申し入れ

平成 18 年度の第四回定例会においてまちづくり推進部長は自然の浄化作用を活性化する効果があるので自然の河床を保全してゆきたいと答弁している。八幡橋付近の改修工事、さらにいずれ近い将来実施される新幹線横断地点から下流側の未改修区間の改修工事は三面護岸をコンクリート張りにするのではなく、生物の生息を念頭に自然に近い形での河川改修ができるよう東京都に対して申し入れてもらえないか。

回答 呑川の生き物環境を整えることは基本的には価値のあることと思う。特にユスリカ対策としての効果も期待できる。ただし、台風時の増水を考えると自然に近い形での改修は困難である。今後未改修区間の改修工事は継続して実施してゆくと聞いているので東京都に生物の生育を含めた改修工事や維持管理に一層の配慮を求めたい。

質問6 住民等との協議会の設置

JR 蒲田付近は自然の川の浄化作用を促そうとしているにもかかわらず、なぜ八幡橋付近の改修工事で逆のことが起きるのか。一つはこれまで浄化対策研究会のような仕組みがなかったことがあげられようが、もう一つ重要なことは地域住民の意見を反映できる仕組みがなかったことにあるのではないかと。そこで呑川を地域に親しまれる川として、また大田区の核となる地域資源としてどのようにしていくかを区民・専門家・行政などが協働で進める場として「協議会」をつくってはどうか

回答 昨年 11 月には「呑川をきれいにする会との意見交換を行ったが、今後もこれは定期的開催してゆきたい。現時点では協議会の設置は困難と考える。

この質問に対し、奈須議員は再度公式な位置づけである「協議会」についての松原区長の考えを質したが、秋山副区長が定期的に話し合いの場を持ち都の方に、皆さんのご意見をきちんと伝えたいと思っていると答弁するに止まった。

質問7 西蒲田地区の河床構造の改善

呑川の悪臭防止のため、定期的に河床の浚渫をすることは意味があるが、現在は機械的に浚渫しているため、御成橋付近より山野橋付近の方が深くなってしまい、潮の干満の影響もあり、山野橋付近に汚濁物質を滞留させる結果を招いており、現在の単なる浚渫はかえって悪臭を招き、無駄な費用を投じていることになる。早急に浚渫の方法を改めるとともに深くなってしまった河床の形質を改善する必要があると思うがどう考えるか。

回答 浚渫は治水対策上から実施しているが、河床の状況を測量した上で、河床を整齊する必要があると考えるので東京都と測量等も含めながら協議したい。

要望 調査研究機関等への調査委託とその結果に基づく協議会での検討の仕組み

最後に呑川対策はきちんとした調査・データの下に進められるべきであり、信頼できる調査研究機関やコンサルタントへの調査を委託すること。そしてその調査結果をもとに先ほど提案した区民参加の協議会の中で十分に検討できる仕組みを作ってもらうことを要望したい。

昨年 4 月の選挙で松原区長が選出されました。松原区長は元々呑川に関心を持たれていて、就任直後の緊急 2 ヶ年計画でもその一つに「呑川水質浄化対策の検討」を掲げられました。そのような背景の上、奈須議員の的確な説得力のある質問により、全体として前向きな答弁が多かったように思います。正式な協議会の設置が認められなかったのは残念ですが、呑川をきれいにする会との定期的な会合は公式に認められたので、今後はその場を活用し、今回の答弁の中では抽象的な回答に留まっている項目についてももっと具体的に意見を交換してゆく必要があるでしょう。また一方呑川に関心を持つ市民、市民団体が私たちの活動に参加されるよう呼びかけてゆくことも重要と思います。 以上

奈須りえのプロフィール

1961年 東京都生まれ(旧姓 関 利江)

1982年 東洋英和女学院短大卒業

1982年～87年東京海上火災保険(株)勤務

1985年 青山学院大学文学部教育学科卒業

1992年～97年 夫の転勤に伴い香港在住

2001年 区立調布大塚小PTA副会長

2002年 大田・生活者ネットワーク政策委員長

2003年 大田区議会議員初当選

2003～議会の種類委員会委員、審議会委員

2007年 大田区議会議員二期目当選

現在 区議会都市整備委員会委員 都市計画審議会委員

呑川沿岸(工大橋～河口)の樹木 (2)

可 児 昭



宮前橋～山下橋の八重桜



川面近くの染井吉野



上堰橋～日蓮橋の染井吉野

一雨ごとに暖かくなり木の芽が膨らみ、花が次々に咲き出し、いよいよ華やかな季節になってきた。呑川沿岸には春に咲く花は、55種類ある。呑川沿いも「白木蓮・ハクモクレン」が咲き、この花が散る頃いよいよ春の花見の主役である呑川沿いの340本の桜が次々に咲き、歩く人を楽しませてくれる。

(上流・右岸 86・左岸 22、中流・右岸 84・左岸 32、下流・右岸 51・左岸 69)

その中に「八重桜」「大島桜」等があり、工大橋

付近に「ウコン」の桜が咲くが、ほとんどは「染井吉野・ソメイヨシノ」である。この桜は明治時代初期頃から全国に普及されたものである。それ以前の花見の桜は「山桜」であった。葉より先に「イッキ」に花が咲き「パット」散る華やかな「染井吉野」を好む人と、葉の後から花が開き、花の色が微妙に違う「山桜」を好む人に分かれる。昔から花見で有名な奈良吉野山は「山桜」である。

呑川上流の世田谷区・目黒区の部分と呑川下流の旧呑川は、「呑川緑道」として桜並木になり地域住民を楽しませているが、更に水面が見える工大橋から河口まで、もっと多くの桜が植えることが出来れば呑川全

体がより多くの人々に愛される川になるだろう。(写真提供：白石 琇朗)

■「さくら(桜)」 ばら科 落葉、高木
さくら餅には、大島桜の葉を使用

野川下流ウォーク

写真は最終ページに掲載！

3月29日 土曜日 快晴 無風！

絶好の行楽日和！ ウォーキング日和！朝9時半、京王線 柴崎集合。時刻までに、12名の参加者が集合しました。東京マイコブからと大田郷土博物館水路の会の方もご参加いただきました。

柴崎駅南口から、南西方向へ、道なりに数分歩くと野川に出ます。まず、目に入ったのが、三面コンクリートの呑川とはまるっきり違う、本来の「川」でした。すなわち、一番低い位置には、清い水が、しかも、蛇行して、流れ、その、兩岸には、広々とした河原が広がり、更に一段高いところに堤防が築かれています。それほどの水量ではなく、水深は、数十センチかと思われます。鯉が非常に多く見られました。緋鯉も、ゆったりと泳いで、ところどころに、水鳥がいます。まがも、やおしどり、かるがも、などは勿論、こさぎ、おおさぎ、あおさぎ、かわう、などなどです。目には、なかなかとまりませんが、うぐいす、や小鳥も付近を飛んでいる様子です。

この付近の野川の河原にも、草道がありますが、堤防に手すり(フェンス)があり、河原に降りることが出来ません。そこで、車橋から左岸堤防上の満開桜の木の下をしばらく歩いてゆくと、河原の草道に降りることが出来ました。目線が低くなり、対岸の満開の見事なサクラの咲き振りを堪能しながらワースパラシイ・みごと・きれいなどと感嘆詞が上がりました。野川橋～小金橋まで行き、右岸に渡り、旧川道の野川緑地公園を見学しました。元に戻って、再度河原草道をしばらく歩き入間川を渡ると、緑に囲まれたせたがやトラスト協会。川や自然についての資料がたくさんあり興味がつきません。その中でも一際目を引いたのが、カワセミの写真集。このあたりは、カワセミのメッカだったので。どうりで、河原には、たくさのカメラマンが、カワセミの出現しそうな場所に狙いを定めて、自分の大きな巨大望遠レンズ付カメラを三脚にセットして、カワセミの出現を待っていました。そして、しばらく見ていると、われわれの眼のまえをあのヒスイ色のカワセミが飛行してゆくではありませんか！思わず、大きな声で、ワーカワセミだー。と叫んでしまいました。大声を出すと、カワセミは、一層警戒して、巢にこもってしまいます。しまった！と思っても、手遅れ！二度と、姿を見ることは出来ませんでした。それでも、鋭い観察力の持ち主は、3度も見たとのことでした。

対岸のきたみ・ふれあい広場で昼食。ここは、小田急電鉄車両基地の上に全面的に覆いをして土盛りし、植栽した公園でした。自然あふれる野川のすぐ脇という立地条件が、このような配慮すなわち無機質な人口構築物である車両基地を覆い隠すように作られたのでしょう。副次的効果として、野川の堤防レベルより数メートル高い場所に、この公園はあり、公園の入り口への登り階段からの景色は、数百メートルに亘って野川の流れや河原とそこに植わっているサクラやその他の樹木を俯瞰できるということになっています。ここの俯瞰の眺めは、格別に素晴らしいものでした。

写真参照。

昼食後、整備された桜並木の右岸を行き、途中で河原の川沿い草道を進むと、世田谷通に出ました。中野田橋を過ぎ右手の森の「次太夫掘公園」に着きました。この公園は、六郷用水を作った小泉次太夫の功績を後世に伝えるべく、また、昔の村の生活や自然の様子を再現したものである。復元された次太夫堀の流れと水田、古民家が織り成す世田谷郷の、昔の風景を実感できます。モーターポンプで野川から取水して流れを作っている。ここの田圃では、近くの小学生が学校授業の一環として、田植、草取、稲の刈取、等体験学習しているという。田植えが終わった緑の田圃や黄金色になった田圃の見学もしてみたいと思った。

庭先の植え込み、屋敷林や畑なども再現され、畑の中の一角から眺める古民家を含めた世田谷郷の農家の風景は、ほのほのとした日本の原風景を見ているようだ。心のやすまる思いだ。最高のヒーリングタイムだった。

写真参照。

3月11日火曜日午後3時半。

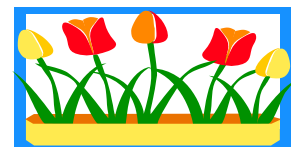
呑川の諸問題、特に中下流部のスカム・悪臭・水質汚濁問題を中心とする市民の苦情を取り上げ区議会で大田区長をはじめとする担当部長に現状認識と行政として実施していることなどを約30分に亘り、質問して下さるということで、私も、初めて、区議会なるものを、傍聴させていただいた。

まず、傍聴を希望する旨申し出ると、事前に奈須さんから話が通っていたのか、持ち物の検査もなく議会二階の傍聴席に案内された。私その他、呑川の会から福井、折戸、吉田、可児の諸氏で5名であった。事情により、少し待たされたが、われわれ呑川の会の会員が等しく望んでいる「きれいなそして親しみのある呑川」をどのようにして実現してゆこうとしているのか、大田区の考え方を知る又とない好機として固唾を呑んで拝聴？傍聴した。

奈須議員の澄んだそして歯切れの良いしかも限られた持ち時間故、かなり早口での矢継ぎ早の質問は、われわれをグイグイ惹き付けた。しかし、われわれが、国会中継で時々見るように行政当局（担当部長）からの答弁（回答）は、事前に準備されたお役所独特の言い回しで差障りのない「無難な」「検討する（が実行できないというニュアンス）」的なもので、少々、ガッカリであった。

しかし、松原区政になって以来、自然や環境問題について、徐々にではあるが、前向きな姿勢が見られるようになったとのことである。「100年清河を待つ」的なところもあるが、一部前向きで具体的な回答や施策もあり、夕方、議会傍聴席を後にした。

それにしても、これも国会と同様「品格を疑うヤジや罵声？」が、議場で、最初から終わりまで聞かれ真剣に傍聴しているわれわれの気持ちを逆なでするものであった。議員歳費と政務調査費で、年間ひとりの議員あたり1千数百万円の区民税を費やしている。是非、それに見合う「仕事」を期待したい。



今後のスケジュール

4月9日(水) 呑川をきれいにする会 4月度定例会

時間 10時～12時

場所 生活センター2階 グループ活動室

4月19日(土) 芽吹きウォーク

別掲のとおり

6月6日(金) 呑川の会 6月度定例会

時間・場所 未定

6月 呑川の会 総会

日時・場所 未定

★＜編集後記＞

地球温暖化防止！今年は、この言葉を何度聞かだろう。今年7月には、地球環境問題を主テーマに、洞爺湖サミット開催予定ですが、はたして成果は？振り返って呑川の環境問題に前進はあったのでしょうか？昨年5月19日開催された「呑川シンポジウム」を出発点として、今年3月11日には、大田区区議会でも、長時間にわたって呑川の環境改善問題がとりあげられ、区当局から一部前向きな回答を引き出すことに成功しました。今後も、我々の積極的な行動で、よりよい呑川の環境を！と叫びたいと思います。

(工藤世話人 記)



喜多見ふれあい広場
からの俯瞰



次太夫公園の古民家



せたがやトラストで頂戴したカワセミの写真